

東日本大震災

愛と希望の復興：宮城県岩沼市

ペアリング支援ニュース

2018. 6. 6 発行 No.51

発行者：
中央大学理工学部人間総合理工学科
環境デザイン研究室
〒112-8551 東京都文京区春日 1-13-27
2号館 2811・2817号室

「希望の環」第三回植樹祭への参加と被災地の復興の調査

2018年6月3日に、環境デザイン研究室では、宮城県岩沼市での「希望の環」第三回植樹祭への参加、ならびに、東日本大震災の被災地の復興の調査を行いました。

植樹祭は、玉浦西まちづくり住民協議会、中央大学の協力の下、岩沼市、公益財団法人ニッセイ緑の財団、"ニッセイの森"友の会の共催によって行われました。「希望の環」は、東日本大震災で被災するまで岩沼市の沿岸域に存在していた相野釜、藤曽根、二野倉、長谷釜、蒲崎、新浜の6集落の記憶を引き継ぐため、千年希望の丘・相野釜公園の一角に、旧集落を象徴する6つの環から成る森を作り出し、1000年先までにぎわう場所にしようというプロジェクトです。6集落の方々が集団移転して生み出された新しいまちである玉浦西地区のまちづくり住民協議会の方々と、中央大学、ニッセイ緑の財団の協働のもと2年前に始まりました。一昨年の第一回植樹祭、昨年の第二回植樹祭を通じて植えられた苗木は、元気にすくすくと育っています。

今回の第三回植樹祭では、イソギクが成長している2つの環とその周辺に、クヌギ、コナラ、アラカシ、シラカシ4種類の苗木計700本が植えられました。苗木は、全国の小学生(※)がドングリから育ててくれたものと石川研究室が用意したものをしました。当日は好天に恵まれ約100名もの方々に参加していただき、中央大学からは、石川教授と石川研究室スタッフ、そして、人間総合理工学科の1年生6名が参加しました。スコップで土を掘り、苗木を植え、支柱を打ち込み、支柱と苗木をテープで結びつける作業を、地元の方々と相談しながら、楽しく行うことができました。みんなで植えた苗木が健やかに成長して、地域の大切な森となっていくように、これからもしっかりと見守っていきましょう。

※協力してくださった小学校：(埼玉県)皆野町立皆野小学校、(東京都)足立区立弘道小学校、多摩市立連光寺小学校、(愛知県)岡崎市立秦梨小学校、(鳥取県)倉吉市立北谷小学校、倉吉市立明倫小学校、鳥取市立神戸小学校



千年希望の丘「希望の環」の植栽計画図。
岩沼市の沿岸域に存在した集落を象徴する「環」から成る森をつくりだしていきます。



一昨年に植えられた苗木。予想通り落葉樹が元気で、成長の遅い常緑樹を守っています。



幅広い年齢の多くの方々に参加していただきました。



植樹をする石川先生と
1年生の中山さんのツーショット



1年生の工藤さん、山平さん、木村さん、小坂くんのチームワーク



元気な苗木を植える1年生の伊藤さん



植樹エリアをみわたす山下先生



作業中の山本教育技術員と根岸研究員

植樹祭の終了後、東日本大震災の津波で被災した宮城県岩沼市、名取市、仙台市にまたがる地域の復興の様子を調査しました。

まずは、岩沼市の玉浦西地区を調査しました。玉浦西まちづくり住民協議会のみなさまに、新しいまちを生み出すまでの様々なご努力についてご説明いただきました。一つ一つの公園や樹木、町のブロック割に、地域の方々の思いがどのように反映されてきたのか、また反映させることができなかったのかについて、貴重なお話を伺うことができました。

岩沼市の沿岸域では、津波にあらわれた海岸林の調査を行いました。既存木が残存している海岸林では、森の自律的な更新が行われていました。津波の被害を受けた森がどのように再生していくのかを長期的に調査し、森の特性を踏まえて今後の森づくりに生かしていくことの重要性を理解しました。

名取市の閑上地区では、海沿いの平地にある高台である日和山に上り、津波の威力を改めて実感しました。また、閑上地区の復興まちづくりの視察では、地盤のかさ上げや高層住宅によって構成されているまちの様子を見学し、自治体によって、復興まちづくりの在り方に大きな違いがあることを認識しました。

仙台市の荒浜小学校は、震災の遺構として保存され、津波被害の状況について展示が行われています。現実には被災した空間がそのまま残されている中で震災について学ぶことで、圧倒的なリアリティをもって当時の状況を想像することができました。震災の記憶を保存して将来に継承していくことの大切さを肌身をもって体感しました。

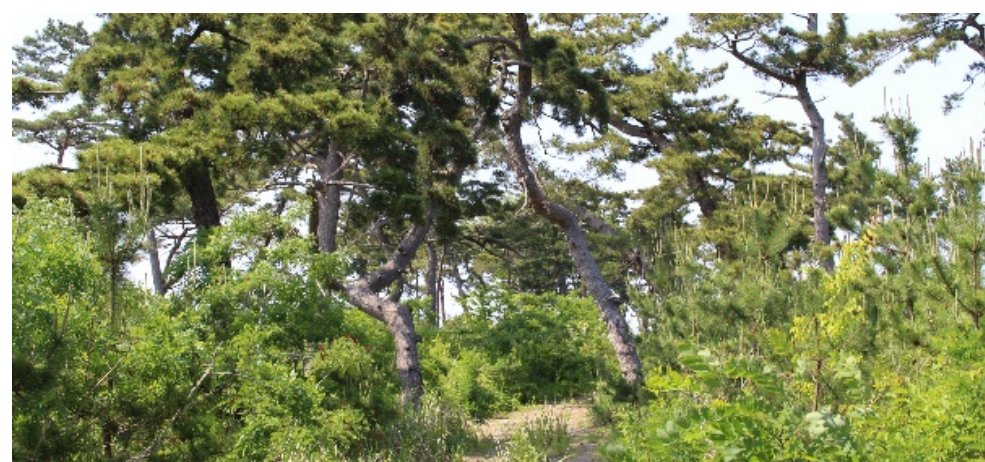
短い時間での駆け足の調査ではありましたが、非常にさまざまな復興の状況について学ぶことができました。まちづくりに関わる考え方や姿勢について、各々、さらに深く考えていきたいと思います。



岩沼市玉浦西まちづくり協議会のみなさんと集合写真。後ろの大きな銀杏の木は、みなさんの昔の集落の記憶を受け継ぐシンボルツリー。



岩沼市玉浦西地区を取り囲むイグネ。地域の方々みずから将来のまちの基盤を育んでいます。



岩沼市旧集落の残存した海岸林では自律的更新が見られました。森の状況を調査し、今後の森づくりへとつなげていく必要があります。



名取市閑上地区の日和山。高台の上にまで屋根を押し流してきた津波の威力を目の当たりにしました。



震災の遺構として保存されている仙台市荒浜小学校の屋上から。記憶を継承し今後の災害への備えを喚起する重要性を学びました。



名取市閑上地区の復興まちづくりの様子。自治体ごとに、まちの作り方に大きな差があります。まちづくりに対する考え方が、実際に生み出されるまちにとって決定的に重要であることがわかります。